

2023年度 学校法人熊本YMCA学園 事業報告

・YMCA水前寺幼稚園

(1) 幼稚園

	満3歳児		3歳児 (年少組)		4歳児 (年中組)		5歳児 (年長組)		計	
	予算	実数	予算	実数	予算	実数	予算	実数	予算	実数
4月	8名	4名	28名	26名	24名	24名	32名	30名	92名	84名
5月	8名	5名	28名	26名	24名	24名	32名	30名	92名	85名
6月	8名	5名	28名	26名	24名	24名	32名	30名	92名	85名
7月	8名	5名	28名	26名	24名	24名	32名	30名	92名	85名
8月	8名	5名	22名	26名	24名	24名	32名	30名	92名	85名
9月	8名	5名	22名	26名	24名	24名	32名	30名	92名	85名
10月	8名	6名	22名	26名	24名	24名	32名	30名	92名	86名
11月	8名	6名	22名	26名	24名	24名	32名	29名	92名	85名
12月	8名	6名	22名	26名	24名	24名	32名	29名	92名	85名
1月	8名	6名	22名	26名	24名	24名	32名	29名	92名	85名
2月	8名	6名	22名	26名	24名	24名	32名	29名	92名	85名
3月	8名	6名	22名	25名	24名	24名	32名	29名	92名	84名
平均	8名	5名	24名	26名	24名	24名	32名	29名	92名	84.9名

〔最終評価〕

年間通して、園児数に大きな変動はない。満3歳児が10月開講分に1名入園。10月末と2月末に年長・年少児がそれぞれ1名退園（保護者の転勤に伴い）となったため最終在籍者数は84名と予算定員のマイナス7名となった。次年度は、業界全体として願書受付開始が1ヶ月早く、10月1日になる。それに伴い、園児募集活動時期も早め、特に未満児の獲得に力を入れていきたい。

	ピアノ教室		バレエ		そろばん教室		チアリーディング	
	予算	実数	予算	実数	予算	実数	予算	実数
4月	25名	15名	8名	7名	18名	14名	5名	5名
5月	25名	17名	8名	7名	18名	14名	5名	5名
6月	25名	17名	8名	7名	18名	14名	5名	5名
7月	25名	18名	8名	7名	18名	14名	5名	5名
8月	19名	18名	8名	7名	18名	14名	5名	5名
9月	19名	17名	8名	7名	18名	14名	5名	5名
10月	19名	17名	8名	7名	18名	14名	5名	5名
11月	19名	17名	8名	7名	18名	14名	5名	5名
12月	19名	17名	8名	7名	18名	14名	5名	5名
1月	19名	17名	8名	7名	18名	14名	5名	5名
2月	19名	17名	8名	7名	18名	14名	5名	5名
3月	19名	17名	8名	7名	18名	14名	5名	5名
平均	19名	17名	8名	7名	18名	14名	5名	5名

〔最終評価〕

在園児数の減少の割合と同じ割合でYっこ教室在籍者数も減少。そろばん教室は小学生になっても継続されるケースが多いため、次年度も全員継続予定だが、その他のプログラムは卒園と同時に退会されるケースが多いため、年度途中で年少・年中児の獲得が必要であると考えます。

2. YMCA熊本五福幼稚園

(1) 幼稚園

	満3歳児		3歳児 (年少組)		4歳児 (年中組)		5歳児 (年長組)		計	
	予算	実数	予算	実数	予算	実数	予算	実数	予算	実数
4月	0名	0名	19名	20名	22名	21名	24名	23名	65名	64名
5月	5名	5名	19名	20名	22名	21名	24名	23名	70名	69名
6月	5名	5名	19名	20名	22名	21名	24名	23名	70名	69名
7月	5名	5名	19名	20名	22名	21名	24名	23名	70名	69名
8月	5名	5名	19名	20名	22名	21名	24名	23名	70名	69名
9月	10名	7名	19名	20名	22名	19名	24名	23名	75名	69名
10月	10名	7名	19名	20名	22名	19名	24名	23名	75名	69名
11月	10名	7名	19名	20名	22名	19名	24名	23名	75名	69名
12月	10名	7名	19名	20名	22名	19名	24名	23名	75名	69名

1月	10名	7名	19名	20名	22名	19名	24名	23名	75名	69名
2月	10名	7名	19名	19名	22名	19名	24名	23名	75名	68名
3月	10名	7名	19名	19名	22名	19名	24名	23名	75名	68名
平均	8名	6名	19名	20名	22名	20名	24名	23名	75名	68名

〔最終評価〕

最終的に満3歳児3名、3歳以上児が4名減の状況で年度を終了した。前年度3月での退園2名分と途中退園3名分を補うことができなかった。退園は、保護者の転勤に伴う転園が理由である。

2024年度は、進級人数が年中、年長組各20名のため、予算人数も70名を下回る予定。

3. 専修学校熊本YMCA学院

(1) 専門課程・高等課程

	建築科						ホテル観光科					
	第1学年		第2学年		計		第1学年		第2学年		計	
	予算	実数	予算	実数	予算	実数	予算	実数	予算	実数	予算	実数
前期	47名	53名	57名	58名	104名	111名	15名	16名	10名	10名	25名	26名
後期	44名	53名	55名	58名	99名	111名	14名	16名	10名	10名	24名	26名
平均	46名	53名	56名	58名	102名	111名	15名	16名	10名	10名	25名	26名

	医療秘書科							
	第1学年		第2学年		専攻科		計	
	予算	実数	予算	実数	予算	実数	予算	実数
前期	17名	16名	21名	21名	—	—	38名	37名
後期	16名	16名	20名	21名	—	—	36名	37名
平均	17名	16名	21名	21名	—	—	37名	37名

	健康スポーツ科					
	第1学年		第2学年		計	
	予算	実数	予算	実数	予算	実数
前期	13名	13名	12名	12名	25名	25名
後期	12名	11名	11名	12名	23名	23名
平均	13名	12名	12名	12名	24名	24名

	こども保育科							
	第1学年		第2学年		第3学年		計	
	予算	実数	予算	実数	予算	実数	予算	実数
前期	21名	18名	17名	17名	15名	16名	53名	51名
後期	19名	18名	16名	17名	15名	16名	50名	51名
平均	20名	18名	17名	17名	15名	16名	52名	51名

	グローバルコミュニケーション科					
	第1学年		第2学年		計	
	予算	実数	予算	実数	予算	実数
前期	名	名	—	—	名	名
後期	名	名	—	—	名	名
平均	名	名	—	—	名	名

	日本語科					
	新入生		継続生		計	
	予算	実数	予算	実数	予算	実数
春期	36名	43名	64名	70名	100名	113名
秋期	32名	32名	95名	104名	127名	136名
平均	34名	37名	79名	87名	113名	124名

〔最終評価〕

<建築科>

- 学生によるコンクール入賞や熊本市長への卒業制作プレゼンテーションなど活躍の場が多くあった。
- 熊本YMCA75周年を記念した建築科同窓会は、建築、設計業界で活躍する卒業生が集い、学生時代の思い出話や情報共有の場として素晴らしい機会となった。また在校生のために卒業生の

経営する企業から教材設備の寄贈や寄付をいただくなど歴史ある学科の繋がりを感じる年となった。

- 学習環境の改善のために、定期的に教室を入れ替えることと補助教員によるサポートを継続。測量機器のリースと補助教員により測量実習をより充実させている。次年度は、CAD検定を実施するなど社会のニーズに応える対応も行っていく。

<地域創生ITビジネス科>

募集停止のため、在籍者なし。

<医療秘書科>

- 日本医師会認定医療秘書養成校1年目のカリキュラムは無事に終了。県医師会のご協力により、地域医療に従事されていらっしゃる理事の先生方6名の新規講師登録が完了。次年度(2年生)の授業をご担当いただく。より専門的で、地域医療に関する学びも期待している。
- 10月に日本医師会総会、3月に運営委員会に参加。全国の動きを確認するとともに、他の養成校の取り組みや認定試験のアドバイスも頂き、とても参考となる会となった。今後は、他校と情報交換をしながら、カリキュラムの充実や認定試験合格率アップを目指す。
- 7月に医療機関実習を実施、実習先からの指名求人率25%と例年並み。済生会病院、高野病院、回生会病院、熊本リハビリテーション病院など、毎年求人をいただく医療機関に加え、熊本大学病院や熊本中央病院の難関への就職も果たした。
- 3月には県医師会のご協力により、県内医療機関に2100枚のチラシ配布を行った。それにより、今までにない医療機関からの求人との問い合わせも増えた。本学院医療秘書科の知名度向上につながったが、合わせて学生募集のご協力もお願いしていく。

<ホテル観光科>

- 8月末にネパールで行われたワイズメンズクラブ国際協会アジアユースコンボケーションに、2年の金丸翔海さん、2月に中国上海で行われた日中韓YMCA平和フォーラムに1年の金漢林さんが参加。交流を深めるとともに、文化の違いを感じ、他学生や報告会を行い平和への関心が高まる機会を作った。
- 卒業制作の一環として取り組んだ「おもてなし修学旅行」において、県内企業様、ワイズメンズクラブ等へのプレゼンテーションの機会を多く頂きました。当初、東京研修2泊3日に向けた、協賛の目標達成は出来なかったが、総額20万円のご支援をいただき、大分1泊2日研修を実施する事が出来ました。企画やチャレンジと、予定変更などはあったが、最後までやり抜く力を発揮する経験ができた。
- 1年生は、1月末～2月末まで、企業実習を無事に終えることが出来た。実習先は、福岡のホテルに3名、県内のホテル12名、結婚式場に1名が実習に取り組んだ。実習を終えて、そのままホテルでアルバイトをしている生徒が数名おり、就職も意識していると感じる。
- 国家資格である「レストラン技能検定」は、2年生10名中1名が実技まで合格した。
- 国家資格である「ブライダルコーディネーター検定」は、2年生3名中3名が合格した。

<健康スポーツ科>

- 岱志高校との連携協定を締結して、キャンプ、レクリエーション、ゴルフ、コンディショニング等の授業サポートや、本学院に生徒を招いてのガイダンスなどを実施し、高校との連携活動等におけるモデルとなった。
- 例年と同じく、登山実習、マリンスポーツ実習、ウィンタースポーツ実習に取り組み、自然の中で活動する際の安全面やアクティビティを体験することができ、クラスにおける交流を深め、人間教育の一側面も充実した。
- SMARTHANDSストレッチリリースセミナー、NSCA九州ADセミナーへの参加や、オリンピック指導者を招いてのトップスポーツ研修、DAHERCTPC資格取得のための研修など、プロフェッショナルからの学びを通して知識と技術の習得に取り組むことができた。
- 目指す資格試験の合格率は、健康運動実践指導者50%、NSCA-CPT50%と例年と変わらない状況であったが、全国平均を下回る結果となった。対策授業の実施方法について検討する必要がある。
- 就職率は100%である。進路別にはスポーツ指導者4名、トレーナー2名、セラピスト2名、スポーツ関連企業1名、一般企業3名となった。

<介護福祉学科>

募集停止のため、在籍者なし。

<こども保育科>

- 指定保育士養成施設認定に伴い、2年課程での新入生を迎えた。新カリキュラムとなり、スリム化となったが、規定実習に向けた観察実習や運動会実習、規定実習準備、次年度実習決定と、あわただしい年度末の取り組みとなった。次年度は、より計画的にゆとりをもって進めていく。
- 教育・保育実習は、各学年同じ日程の実習期間としたが、効率的に巡回指導を行うことができた。
- 近畿大学の単位未取得者が2名となり、保育士・幼稚園教諭の資格を取得することができなかった。近畿大学の一般生として継続し、単位取得を目指す。卒業後もサポートしていく。
- 卒業制作において総合表現活動に取り組んだ。御船カルチャーセンターにて開演することができ、能登半島地震の募金活動も実施した。当日は170名を超える来場者があり、お越しいただいた皆様に感謝したい。
- 就職希望者13名中13名が就職内定（保育所7名、幼稚園2名、児童福祉施設4名）をいただくことができた。

<グローバルコミュニケーション科>

募集停止のため、在籍者なし。

<日本語科>

- 本学院は「適正校クラスI（旧称 在籍管理優良校）」であるため、2023年10月期生の入国管理局交付率は4月期に続き100%と最高の結果であった。それにより、在籍生は定員140名に対して過去最高の136名となった。（新入生32名、継続生104名）また、在籍生の国籍も14ヵ国となり多国籍を目指す本学院としては良い傾向が続いている。
- 下半期は複数のワイズメンズクラブが主催するプログラムに留学生が参加して交流を深めることができた。9月28日（木）熊本Nスピリットワイズメンズクラブ例会に3名の学生が参加。10月17日（火）熊本みなみワイズメンズクラブ例会に2名の学生が参加。10月28日（土）熊本ジェーンズワイズメンズクラブじゃがいもファンズ運搬ボランティアに7名の学生が参加。12月8日（金）熊本ジェーンズワイズメンズクラブ主催の交流会に17名の学生が参加。同クラブからは30年以上に渡り奨学金給付事業などで支援を頂いており、この交流会を期に年に3～4回の交流会を続けていくことで合意している。
- 11月5日（日）に行われた前進祭では、留学生は民族衣装によるファッションショー、伝統的な踊りの披露やギターによる弾き語りなどを行い、国際色豊かなプログラムとなった。また、専門学校日本人の学生と積極的に会話する姿があちこちで見られ、留学生、日本人学生双方にとって良き異文化理解の時となった。
- 本学院は進学コースのため就職者は稀であるが、ウクライナ避難民の卒業生1名が西部ガスに、台湾の卒業生1名は肥後銀行への就職が決まった。

(2) 附帯事業

校舎	部 門	講 座 名	開講月	予算	実数
中央	通信制事業	社会福祉学科通信制	4月～3月	80名	73名
		社会福祉受験対策講座	10月・11月	104名	68名
		精神保健福祉学科通信制	4月～2月	40名	53名
		精神保健受験対策講座	10月・11月	26名	27名

[最終評価]

- 入校式やオリエンテーションに関しては社会福祉学科と精神保健福祉学科の合同で行なった。対面を基本として会場をジェーンズホールと405教室に分けて行なった。オリエンテーションではGメールやClassroomの利用について案内した。
- スクーリングについてコロナの影響も少なくなったので対面授業を基本としたスクーリングを実施とした。
- 実習は社会福祉学科2年生の1名の受講生が感染状況の拡大ともなって中止となりオンライン演習やレポート提出などの代替実習とした。
- 社会福祉学科1年生の実習は、新カリキュラム導入により実習先が1カ所から2カ所へ変更となり、実習内容も変更になる予定、実習先との交渉を行なった。
- 精神保健福祉学科の実習は通常通り行なっているが、コロナ明けでも実習受け入れ調整が難航した。
- 受験対策講座については今年度もオンラインとのハイブリッド開催とした。社会福祉学科の申込が少なく、今後の実施も含めて検討が必要。精神保健福祉学科については、昨年に引き続き横浜YMCAとの共同実施とし、オンラインでの参加があった。

- 国家試験の結果社会福祉学科 62名受験し50名合格、合格率80.6%（全国合格率58.1%）、精神保健福祉学科 48名受験し、42名合格 合格率87.5%（全国合格率70.4%）。社会福祉学科は例年より合格率高く、新カリキュラムの変更前合格に向けた受講生の意識が高かったことも要因の一つである。